

## 農業担い手の確保・育成と経営改善支援 ～新規就農者を中心に～

### 倉吉農業改良普及所

#### 〈活動事例の要旨〉

倉吉農業改良普及所（以下、普及所）管内では、毎年、就農相談が20件程度あり、毎年5～8名がアグリスタート研修や農業大学校の研修などを経て就農している。普及所は、就農5年以内の農業者を重点に、栽培技術や経営管理技術の習得を支援しているが、平成30年からは新たな試みとして普及所が主催する集合研修会も加えて支援の重点メニューとした。そのねらいは、基本技術の習得だけではなく、研修会を通して新規就農者間のつながりを構築する事にある。普及所は、新規就農者が将来の地域の担い手として中核的存在になるよう支援していく。

#### 1. 普及活動の課題・目標

- (1) 就農相談者には、希望する就農形態に応じた情報提供を行い、必要に応じた農業研修の紹介と研修の実施に向けて関係機関との調整を行う。
- (2) 就農に向けて、営農計画の作成支援や農地の確保および施設の調整等について関係機関と連携をとりながら、農業経営が開始できるように支援する。
- (3) 就農後は、栽培や経営に関する技術・知識の習得を支援するだけでなく、新規就農者間のつながりの構築を図り、地域の担い手として自立した農業者となるよう支援する。
- (4) 普及活動の目標は、就農5年以内の新規就農者を対象とし、営農計画に掲げた所得目標の達成者を80%以上とする。

#### 2. 普及活動の内容

- (1) 就農相談者には、希望に応じ選択可能な進路の整理と研修の実施に向けた調整を図った。
- (2) 就農前研修受講者には、関係機関やJA生産部と連携をとりながら、就農希望地でのほ場確保や施設、機械の設備等の調整、営農計画の作成等について支援し、営農開始に向けて支援した。
- (3) 新規就農者には、以下の支援を行った。
  - ア. 特技普及員が主体となり、栽培や経営に関する技術や知識の習得に向けた個別支援を行った。
  - イ. 総合支援班が主体となり、対象者全員に関わる集合研修を開催した。研修内容については、新規就農者からの要望をアンケートで聞き取り、要望の高かった項目をテーマとして研修を行った（写真1、2、3）。



写真1 農業簿記研修会



写真2 ロープワーク研修会



写真3 農業機械研修会

### 3. 具体的な成果

- (1) 令和元年度は例年より多い13名が就農し(独立就農者6名、親元就農者7名)、9名が研修の受講を開始した。また、5名が次年度に就農認定を予定している。
- (2) 平成30年度の普及所主催の集合研修は、表1に示すとおり4回開催し、参加人数は合計31名であった。令和元年度は8回開催し、参加人数は合計125名であった(表2)。

表1 平成30年度 集合研修と参加者

開催日	研修内容	参加人数 (人)
10月2日	農業基礎研修	7
11月15日	簿記基礎研修	5
11月22日	鳥獣被害対策	10
11月29日	農地研修	9
合計		31

表2 令和元年度 集合研修と参加者

開催日	研修内容	参加人数 (人)
10月29日	ロープワーク研修*	9
11月15日	農業セミナー	20
11月22日	農業簿記研修会1回目	26
11月29日	農業簿記研修会2回目	29
12月10日	農業簿記研修会3回目	23
1月14日	農業機械研修*	9
1月23日	パソコン簿記入力講習会	4
1月21・23日	パソコン簿記記帳会	5
合計		125

\* 女性対象の講座と共同開催

- (3) 研修前にとったアンケート(表3)や研修終了後のアンケート結果から新規就農者が必要と感じている技術や知識が把握でき、今後の支援方法について参考となった。

表3 新規就農者が学びたい事項(農業セミナー出席者20名よるアンケート結果から。複数回答あり)

	機械 保守	機械 操作	簿記	排水 対策	土壌	鳥獣 被害	健康	労働 改善	スマート 農業	認証 制度	資金 融資	補助 事業
人数 (人)	4	6	9	3	9	5	1	4	4	5	6	4

- (4) 令和元年度に行った集合研修のうち2回（ロープワーク研修、農業機械研修）は女性対象の講座と共同開催とし、その結果、参加者間の交流範囲が広がった。
- (5) 目標の指標としている所得額評価では、所得目標を概ね達成している農業者の割合が年々高くなっている（表4）。

表4 営農計画の所得目標に対する達成度合い

評価	評価基準	H29 (人)	H30 (人)	R1 (人)
A	達成	5	8	7
B	概ね達成（80%以上）	2	0	5
C	未達成（50%～80%）	1	3	1
D	未達成（50%未満）	10	3	4
合計		18	14	17
AおよびBの割合（%）		38.9	57.1	70.6

#### 4. 今後の普及活動に向けて

新規就農者は夢や希望を持って農業を開始し、目標を達成したら次の目標へと、段階を経ながら、地域の担い手としてステップアップする必要がある。

そのためには、地域や関係機関等からの協力が必要であり、日頃から地域と密接につながりが持てるように支援することが重要である。普及所はこれまでどおり、基本技術の習得支援を行ってスキルアップを図っていくが、今回新たに始めた研修会等を通して交流範囲を広げるきっかけづくりとしてもらい、最終的には管内の新規就農者が、地域の担い手として中核的な存在になるように支援していきたい。

（執筆者：飯田 恵）